

女子短期大学における 1Q-1 コンピュータリテラシーに関する一考察

小園井 久美 大塚 美加 島田 幸恵 神林 靖
湘南短期大学

1. はじめに

コンピュータリテラシーという概念はそれぞれの教育機関によってそのレベルの認知が異なると考えられる。初・中等教育と、短期大学、四年制大学におけるコンピュータリテラシーのレベルは自ずと異なる。この報告は当短期大学の情報処理教育を通して、短期大学におけるコンピュータリテラシーがどうあるべきかについて検討・考察を加えたものである。また同時に初・中等情報教育の現状にも目を向け、初・中・高と連続したコンピュータリテラシーのあり方についても検討を加えた。

2. 平成6年度における情報教育の現状

指導要領の改訂により平成6年度以降情報教育が組込まれることとなった。平成8年まで移行処置されているので今現在必ず施行されているとはいえない。それ以前の状況は表1からわかるように、指導できる教師の数が不足しているようである。

2-1 平成6年度指導要領の情報教育の概要

高校の学習指導要領は、平成6年に「数学」と「家庭」に大幅な改訂が行われ、積極的にコンピュータを取り入れた内容のものが施行されることとなった。「数学」はコンピュータにおける算法を理解させる。「家庭(家庭技術)」は家庭生活に関する各分野の職業でコンピュータを活用する。これらの能力と態度を育てることを目標にしている。商業高校の情報教育関係科目の「情報処理」は情報を適切に

処理する。「文書処理」は文書に関する情報を経営活動に役立てる。「プログラミング演習」は経営活動に関する情報を合理的に処理する。「情報管理」は情報を適切に管理し、活用する。「経営情報」はコンピュータを利用して経営活動に役立てる。これらの能力と態度を育てることを目標としている。

2-2 神奈川県内、初・中等情報教育の現状

県の教育委員会への聞き取り調査によると、現在はまだ高校の普通科では情報教育は行われていない。しかし、生活科学科という教科のある高校ではその中で行っているとのことだった。他に情報教育が行われていないか調べたところ、新たに情報教育という科目を設けた学校があった。一般に私立では必修でないが、科目を設けている。公立はまだ科目を設けておらず機器は導入されたが、来年以降はわからないという学校が多いようである。学校差が大きいことがわかった。商業高校は、情報処理関係の学科ができた学校もあるが、今年施行されたばかりなのでまだ定着していない学校が多い。機器の設置状況は、普通科で約20~25台、商業科は約40台ですべての学校に設置された。機種の設定は各学校に任されている。

表1 小・中・高等学校におけるコンピュータに関する状況 (1993年3月31日現在)

	コンピュータ設置率			平均設置台数		コンピュータ操作ができる教員の割合		コンピュータ指導ができる教員の割合	
	1990	1991	1992	1991	1992	1991	1992	1991	1992
小学校	41.0	50.2	57.7	3.8	4.3	17.2	20.2	4.0	5.9
中学校	74.7	86.1	94.7	12.8	19.2	29.7	36.0	9.9	14.5
高等学校	98.5	99.4	99.7	40.6	46.5	39.9	43.8	17.1	18.7

(注) 年はすべて年度
<資料>文部省「学校における情報教育の実態等に関する調査」

A Study of Computer Literacy Education of a
Women's Junior College
Kumi Osonoi, Mika Ohtsuka, Sachie Hatakeda,
Yasushi Kambayashi
Shonan Junior College

3. 当短期大学におけるリテラシー教育

コンピュータを使いこなす能力、つまりコンピュータリテラシーは実社会に出る前に学ぶべき基礎学問の一つと考える。しかし日本でのリテラシー教育

は未完成で、本来ならば初等・中等教育に任せることが適当と考えられるリテラシー教育の多くは、現時点では大学等の教育として実施せざるを得ない状況にある。表2からわかるように本学入学者の約95%が普通科出身の学生だが、リテラシー教育の経験を持つ商業科出身者との格差は大きい。また技術の進歩はめざましく、その時代の社会に適応しコンピュータを道具として自由に操作できる能力を身につけさせる必要があるだろう。

以上のようにコンピュータリテラシーとは流動的であり時代とともに変化するものとする。

当短期大学では、コンピュータリテラシー教育と、専門教育としてコンピュータ教育の講座を開設している。リテラシー教育では、教養としてのコンピュータ教育及び道具としてのコンピュータという部分に限定して、教育できるようになっている。これが本学の特徴ともいえる。専門教育ではUNIXを利用し、学生数を30名と限定し、C言語を中心に教えている。

「情報科学概論」は、リテラシー教育の中でも教養としてのコンピュータ知識という存在であり、コンピュータの基本構造及びコンピュータサイエンスを理解しさらに歴史、最先端の研究開発に至るまでを講義している。

「情報処理」という科目名でワープロ教育は進められている。文系の短期大学という性質から、リテラシー教育と職業教育という二つの要求に答えなければならない面があるが、あくまでも初心者優先の授業展開にするためキータッチトレーニングから行っている。表3からわかるように一人一台のパソコンを使用し、トレーニングソフトを各自のペースで進めることができるようにしている。ワープロの基本操作練習を母体に月1回ペースの課題提出を設け、単なる使い方を取得させる目的ではなく文書に何度となく触れ表現内容を構造化する訓練を行うことに重点をおいている。

これまでに述べてきたリテラシー教育に加え、職業教育として、「ワープロ検定試験」を念頭においてブラインドタッチでのパソコン操作を指導、社会性

を考えビジネス文書についても内容・作成法を指導内容の一部としている。ワープロ検定に向けて夏期休暇などを利用し、集中講座なども開催している。

リテラシー教育の一貫として「情報処理」の延長上に位置する「コンピュータ実務」では、表計算を中心に進めている。基本操作、関数計算、さらにはマクロの使用までを目標にしている。1年次のワープロを基本としてより実践的な対応力を養うために、複数のソフトを使いこなせるよう指導。さらに、ビデオ学習ではコンピュータの歴史と現状、論理上の問題点を追求していく。

表2 入学者出身学科別状況

	総人数(人)	出身学科(人)	構成比(%)
平成6年度	439	普通科	411 93.6
		商業科	25 5.7
		他学科	3 0.7
平成5年度	455	普通科	429 94.3
		商業科	23 5.1
		他学科	3 0.7
平成4年度	448	普通科	422 94.2
		商業科	21 4.7
		他学科	5 1.1

表3 本学のハードウェア・ソフトウェア構成

ハードウェア (台)		ソフトウェア	
ノート型パソコン (PC98NV)	166	ワープロ	一太郎、ワード、リストメーカー
熱転写プリンタ(PC-PR)	150	表計算	フジタカク
カラープリンタ (PC-PR)	2	キータッチ	J-クイック
レーザープリンタ (PC-PR)	1	C A I	コンピュータ概論 ソフトウェア編 流れ図編

4. リテラシー教育の方向性

当短期大学では、リテラシー教育とは別にコンピュータサイエンスの専門教育も行っている。したがってBASICによる初等プログラミング等は行わないこととした。プログラミングまで手を広げた総花式教育では、成果が上がらないと判断したからである。あくまでリテラシー教育は、コンピュータを電子文房具として使いこなすエンドユーザコンピュータに限定することとして、それなりの成果をあげている。

<参考文献>

- 1) 高等学校学習指導要領～文部省平成元年
- 2) 情報化白書～1994年
- 3) 大学等における一般情報教育のあり方に関する調査研究～(社)情報処理学会調査委員会